

教えの庭から

昨年から続いているコロナ禍には、うんざりしていますが、年末にはさらに大雪が降るといふ災害が加わりました。仁照寺境内には、樹齢300年以上と思われる椎の大木があります。根本のところ、大きく3本の幹に分かれています。年末の大雪で幹の1本が折れてしまいました。

この木は、子供の頃から見て育ちましたので、とても愛着があります。大木を抱くと「木から、氣」をもらえる」と言われています。木に耳を付けてみると、大木が水分をくみ上げるシャワーという音が聞こえてきました。氣がもらえたのか、何かうれしい気分になったことがあります。昨年は、出西コミュニケーションセンター

椎の大木折れる

出雲市斐川町・仁照寺住職 江角 弘道

だより(第30号)に仁照寺の椎の大木が紹介されました。この椎の大木を見つめてみると、何かわからないけど、大きな安心感みたいなものが湧いてきます。木が



挿絵 平尾恵郷

仏様におなりでしょうか。そんなことを思っていた時、坂村真民の詩「一本の木を見つめている」と集詩国(第1集)を発見しました。

「一本の木を見つめている木は、私たちを養い、仏

教を教えてください。その時に、この世の無常を強く感じました。その後数年間は、人前で話すことは苦痛でした。しかし、私たちのような犯罪に遭った者が、その体験や命の大切さを、特に若い人に話すこと

もともとインドの大乗仏教では、成仏できるのは「有情」あるいは「衆生」と呼ばれる「心を持った生き物」、すなわち人間と動物に限るとされてきました。それが中国を経て日本に入ると、「草木国土悉皆成仏」という形で、植物も無機物である「国土」までもが成仏できるのだと説かれるようになったということ。現在は、島根被害者サポートセンターの依頼をうけて、妻と共に、中学・高校生たちに「命の大切さを学ぶ教室」で話しています。

「いつまでも昔の大木を教えることは無い」という無常を教えてくれました。坂村真民の詩に「一切無常」(坂村真民全詩集、第6巻)があります。「散って行くから美しいのだ、毀れるから愛しいのだ、別れるから深まらぬのだ、一切無常、それゆえにこそ、すべてが生きてくるのだ」

この詩には、もの言わぬ木は、私たちを養い、仏教を教えてください。その時に、この世の無常を強く感じました。その後数年間は、人前で話すことは苦痛でした。しかし、私たちのような犯罪に遭った者が、その体験や命の大切さを、特に若い人に話すこと